

昭和 30 年頃の生活いろいろ

山本光範（加西市在住）

「北条鉄道」

私がまだ少年だった頃の北条鉄道の事です。あのころはまだ国鉄が運営していて、各駅には駅員さんが2名から3名ほど、今の無人駅など想像も出来ません。朝は客の10名の内9名が三洋電機北条工場の通勤社員、立ちっぱなしで座れませんでした。そして2両編成で夕方はどうにかこうにか座れましたが、ある意味ではマイカー時代の怖さです。

「幸せなペットたち」

私の家は農家で、畑の中に有って、冬になるとネズミが寒さを避けるために入り込みますから、1番の対策は「猫」です。今のようにキャットフードなどというものは都会には有ったかもしれませんが、こちらの店などには有りません。したがって、今にして思えばひどいものを与えていました。父いわく、「おいしいものを食べさせたならばネズミを捕らなくなる」とのこと。今は信じられないほどになって、どこの店に行ってもありとあらゆる味のペットフード、ありすぎて買うのに迷う始末です。あのころの犬猫の寿命は8年、今は15年で、専用の3千円の御節、動物病院に保険に墓、しかし反面、人と同じように認知症が出てきたそうです。

「鶏」

昭和30年頃は、今では信じられないくらいに店はありませんでした。ましてや町の中心地から離れた所に住んでいれば、当たり前でした。

店といえば、学校前のよろず屋さんで、文房具からうどん、食用油と何でも屋さんでした。したがって新鮮な肉などなかなかありませんでした。父が大みそかの朝に、毎年正月用にと鶏を1羽、梅の木につるして、足を括ってさかさまにして首を切って血を出しバラしていました。（梅の花が赤いのはそのせいかなと思っていました。）そして、卵を産まなくなった鶏をどれか見つけるのが私達子供3人の役目で、小屋にはいつも5～6羽飼っていました。

「プロレス」

今では薄型テレビでしかも美しいカラーですが、あの頃は、大きな箱型でしかも白黒でした。私の家にはそのテレビが無かった。しかし父が、プロレスが大好きだったので、近所の家へ父と一緒に

見せてもらいに毎週夜に行きました。「力道山」はまさにあの時代の国民的英雄でした。アメリカレスラーに対して空手チョップで皆「それ行け、それ行け」でした。

「稲作農家」

今日では総てが機械化されていますが、昭和 30 年頃までは農業は重労働でした。

農家は牛を飼っていて、春に水田とか畑の土を起こし、手で植えて、夏には畔の草は鎌で刈る手作業、秋の稲は大八車かりヤカーに。干すために長い竹竿とそれを支える細木を積んで田に行って、鎌で刈り取り束ねた稲を、組んだ竹竿に実を下にして干しました。次に脱穀した米を、家の南側でむしろを敷き詰めた上に、くまなく広げてまた干して……。

今思い出しても何やら重労働で、深いため息が出ます。したがって、一粒のお米も無駄にできません。